



一般社団法人  
日本行動分析学会  
第39回年次大会  
プログラム

2021年8月  
28日（土）  
29日（日）  
オンライン開催

## 大会スケジュール

### ■ 8月27日（金）〈プレ・カンファレンス〉

時間	内容	場所
9:00～12:00	Remo および oVice 会場ツアー、研究発表リハーサル (1)	Remo-Pre1・2 oVice
13:00～14:00	教育講演 1 関西学院大学教授 中島定彦氏 「条件づけの進化的起源を考える」	oVice
14:30～15:30	教育講演 2 日本大学教授 眞邊一近氏 「基礎の基礎：スキナーボックス 実験室における三項随伴性の実現」	oVice
16:00～17:00	教育講演 3 大阪教育大学教授 大河内浩人氏 「人間行動の実験法 2021年版」	oVice
17:30～19:00	理事会	Zoom
18:00～20:00	Remo および oVice 会場ツアー、研究発表リハーサル (2)	Remo-Pre3・4 oVice

### ■ 8月28日（土）

時間	内容	場所
9:00～9:20	開会式	Remo1
9:30～11:30	研究発表 1・2・3	Remo2
12:00～13:00	会員集会	Remo3-1
13:00～14:30	学会企画シンポジウム 1 「Covid-19 影響下の行動分析家の実践例に学び将来に備える」	Remo3-1
15:10～16:40	公募企画シンポジウム 1 「強度行動障害のある人への支援の最前線」	Remo4
	公募企画シンポジウム 2 「我が国における発達障害の早期支援」	Remo3-2
	公募企画シンポジウム 3 「関係フレーム理論の応用的実践」	Remo5
17:00～18:00	招聘講演 同志社大学大学院脳科学研究科教授 櫻井芳雄氏 「シン・ブレインマシンインターフェース：神経活動のオペラント条件づけの応用」	Remo4
18:30～21:00	懇親会	oVice

■ 8月29日（日）

時間	内容	場所
9:00～9:20	連絡	Remo6
9:30～11:30	研究発表 4・5・6	Remo6
12:00～13:00	学会賞授賞式	Remo7-1
13:00～14:30	学会企画シンポジウム 2 「行動分析学は日本の大学でどのように教えられているか」	Remo7-1
15:10～16:40	公募企画シンポジウム 4 「医療現場の行動分析家はコロナ禍で強化の原理をどう活用したのか」	Remo8
	公募企画シンポジウム 5 「行動記録と情報共有システムの利点と課題」	Remo7-2
	公募企画シンポジウム 6 「行動リハビリテーションの最先端」	Remo9
16:50～17:10	閉会式	Remo9

※大会開催期間中は oVice を情報交換スペースおよび休憩室として開放しております。

招聘講演

8月28日(土) 17:00~18:00 (Remo4)

**シン・ブレインマシンインターフェース：  
神経活動のオペラント条件づけの応用**

Brain-machine interface and neurofeedback: Current status and problems

**講師** 櫻井 芳雄 (同志社大学)  
Yoshio SAKURAI (Doshisha University)

**司会** 武藤 崇 (同志社大学)  
Takashi MUTO (Doshisha University)

**<プレ・カンファレンス>**

教育講演 1

8月27日(金) 13:00~14:00 (oVice)

**条件づけの進化的起源を考える**

Considerations on the evolutionary origin of conditioning

**講師** 中島 定彦 (関西学院大学)  
Sadahiko NAKAJIMA (Kwansei Gakuin University)

**司会** 丹野 貴行 (明星大学)  
Takayuki TANNO (Meisei University)

<プレ・カンファレンス>

教育講演 2

8月27日(金) 14:30~15:30 (oVice)

## 基礎の基礎：スキナーボックス 実験室における三項随伴性の 実現

Fundamental of EAB: Skinner Box Simulations of three-term contingency in  
laboratory

講師 眞邊 一近 (日本大学生物資源科学部)

Kazuchika MANABE (Nihon University)

司会 黒田 敏数 (Huckle 株式会社、愛知文教大学)

Toshikazu KURODA (Huckle Co., Ltd/Aichi Bunkyo University)

<プレ・カンファレンス>

教育講演 3

8月27日(金) 16:00~17:00 (oVice)

## 人間行動の実験法 2021年版

Experimentation of human behavior

講師 大河内 浩人(大阪教育大学)

Hiroto OKOUCHI (Osaka Kyoiku University)

司会 中村 敏(神戸学院大学)

Satoshi NAKAMURA (Kobe Gakuin University)

学会企画シンポジウム 1

8月28日(土) 13:00~14:30 (Remo3-1)

## COVID-19 影響下の行動分析家の実践例に学び将来に備える

Lessons from the practices of behavior analysts during the COVID-19 pandemic

**企画・司会** 日本行動分析学会新型コロナウイルス感染症対応ワーキンググループ  
J-ABA COVID-19 Working Group

**話題提供** 門脇陽一 (伊丹市立伊丹特別支援学校)  
Yoichi KADOWAKI (Itami City Special Needs School)  
三田地真実 (星槎大学)  
Mami MITACHI (Seisa University)  
秋田留美 (山野美容芸術短期大学)  
Rumi AKITA (Yamano College of Aesthetics)  
竹島浩司 (株式会社エルチェ)  
Koji TAKESHIMA (Elche Co.)  
平澤紀子 (岐阜大学大学院)  
Noriko HIRASAWA (Gifu University)

学会企画シンポジウム 2

8月29日(日) 13:00~14:30 (Remo7-1)

## 行動分析学は日本の大学でどのように教えられているか

Behavior Analysis Classes in Japanese Universities: Some Case Reports

**企画・司会** 中島定彦 (企画委員会; 関西学院大学)  
Sadahiko NAKAJIMA (J-ABA Academic Planning Committee; Kwansai Gakuin University)

**話題提供** 吉野智富美 (ABA サービス&コンサルティング)  
Chifumi YOSHINO (ABA Service & Consulting)  
山岸直基 (流通経済大学)  
Naoki YAMAGISHI (Ryutsu Keizai University)  
島宗理 (法政大学)  
Satoru SHIMAMUNE (Hosei University)  
杉山尚子 (星槎大学)  
Naoko SUGIYAMA (Seisa University)

## 強度行動障害のある人への支援の最前線

### —個人から社会につなぐための行動分析学ミーティング—

Future Challenges in Supporting People with Severe Behavioral Disorders

**企画・司会** 下山真衣 (信州大学)・倉光晃子 (西南学院大学)

Mae SHIMOYAMA (Shinshu University), Akiko KURAMITSU (Seinan Gakuin University)

**話題提供** 村本浄司 (九州看護福祉大学)

Joji MURAMOTO (Kyushu University of Nursing and Social Welfare)

今本繁 (ABC 研究所)

Shigeru IMAMOTO (ABC Research Institute for Developmental Disability Inc.)

野口幸弘 (福岡障害者支援センター)

Yukihiro NOGUCHI (Fukuoka Shogaisha Shien Center)

**指定討論** 中鹿直樹 (立命館大学)

Naoki NAKASHIKA (Ritsumeikan University)

園山繁樹 (島根県立大学)

Shigeki SONOYAMA (The University of Shimane)

## 公募企画シンポジウム 2

8月28日(土) 15:10~16:40 (Remo3-2)

## 我が国における発達障害の早期支援—そのアウトカムと社会実装—

Early support for developmental disabilities in Japan: Outcomes and social implementation

**企画・司会** 熊仁美 (NPO 法人 ADDS)

Hitomi KUMA (NPO ADDS)

**話題提供** 原口英之 (国立精神・神経医療研究センター)

Hideyuki HARAGUCHI (National Center of Neurology and Psychiatry)

熊仁美 (NPO 法人 ADDS)

Hitomi KUMA (NPO ADDS)

井口妙子 (倉吉市健康福祉部子ども家庭課)・井上雅彦 (鳥取大学医学系研究科)

Taeko IGUCHI (Kurayoshi City Government), Masahiko INOUE (Tottori University)

**指定討論** 鈴木久也 (厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室)

Hisaya SUZUKI (Ministry of Health, Labor and Welfare, Social and Assistance Bureau)

## 関係フレーム理論の応用的実践

### 個人の心理的課題から世界の社会問題へ

Applied Practice of Relational Frame Theory: From individual psychological problems to global social issues

- 企画・司会** 竹内康二 (明星大学)  
Koji TAKEUCHI (Meisei University)
- 話題提供** 伊部臣一郎 (株式会社スタートライン)  
Shin-ichiro IBE (Start Line Co.)  
勿田文記 (株式会社スタートライン)  
Fumiki HANEDA (Start Line Co.)  
久留宮由貴江 (シカゴスクール)  
Yukie KURUMIYA (The Chicago School)
- 指定討論** 山本淳一 (慶應義塾大学)  
Jun-ichi YAMAMOTO (Keio University)

## 医療現場の行動分析家はコロナ禍で強化の原理をどう活用したのか

How behavior analysts in the healthcare field applied the principle of reinforcement in the situation with COVID-19

- 企画・司会** 飛田伊都子 (滋慶医療科学大学大学院)  
Itoko TOBITA (Graduate School of Medical Safety Management, Jikei University of Health Care Sciences)
- 話題提供** 山田利恵 (三菱京都病院)  
Rie YAMADA (Mitsubishi Kyoto Hospital)  
中村祥子 (千里リハビリテーション病院)  
Syoko NAKAMURA (Senri Rehabilitation Hospital)  
東辻保則 (京都田辺中央病院)  
Yasunori HIGASHITSUJI (Kyoto Tanabe-Chuo Hospital)
- 指定討論** 伊藤正人 (大阪市立大学)  
Masato ITO (Osaka City University)

## 行動記録と情報共有システムの利点と課題

### —あなたの現場で使えるシステムは？

Benefits and challenges of behavioral records and information sharing systems

**企画・司会** 奥田健次 (学校法人西軽井沢学園)

Kenji OKUDA (Educational Foundation of Nishi Karuizawa Gakuen)

**話題提供** 佐々木銀河 (筑波大学)

Ginga SASAKI (University of Tsukuba)

笹田夕美子 (行動コーチングアカデミー)

Yumiko SASADA (Academy of Behavioral Coaching)

中谷啓太 (鳥取大学)・井上雅彦 (鳥取大学)

Keita Nakatani (Tottori University), Masahiko INOUE (Tottori University)

**指定討論** 島宗理 (法政大学)

Satoru SHIMAMUNE (Hosei University)

## 公募企画シンポジウム6

8月29日(日) 15:10~16:40 (Remo9)

## 行動リハビリテーションの最先端

State-of-the-art in behavioral rehabilitation

**企画・司会** 山本淳一 (慶應義塾大学)

Jun-ichi YAMAMOTO (Keio University)

**話題提供** 山本淳一 (慶應義塾大学)

Jun-ichi YAMAMOTO (Keio University)

鈴木誠 (東京家政大学)

Makoto SUZUKI (Tokyo Kasei University)

辻愛里 (東京農工大学)

Airi TSUJI (Tokyo University of Agriculture and Technology)

関根悟 (東京大学)

Satoru SEKINE (Tokyo University)

大森圭貢 (湘南医療大学)

Yoshitsugu OMORI (Shonan University of Medical Sciences)

佐々木祥太郎 (聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院)

Shotaro SASAKI (St. Marianna University Yokohama Seibu Hospital)

- |     |  |   |
|-----|--|---|
| 1-1 | 理学療法臨床実習場面における学生の質問行動増加を目的とした応用行動分析学的介入            | ○ 崎山 誠也<br>中鹿 直樹                              |
| 1-2 | Amazon Mechanical Turk を活用したオペラント実験                | ○ 黒田 敏数<br>Ritchey, C. M.<br>Podlesnik, C. A. |
| 1-3 | 学校規模ポジティブ行動支援 (SWPBS) に基づく学級規模ポジティブ行動支援 (CWPBS)    | ○ 松山 康成                                       |
| 1-4 | 行動連鎖中断法による知的障害児の要求行動の形成                            | ○ 木村 大祐<br>村中 智彦                              |
| 1-5 | ゼブラフィッシュにおけるリスク・センシティブな選択行動                        | ○ 眞邊 一近                                       |
| 1-6 | 不登校児へのオンライン学習支援を行うスタッフ育成プログラム                      | ○ 植竹 智央<br>島田 茂樹<br>池澤 真帆<br>志賀 優花梨<br>平山 瑞季  |
| 1-7 | 家庭と学校場面における自閉スペクトラム症児における排泄行動の形成ー排泄記録に基づく指導手続きの検討ー | ○ 飯島 徹  |
| 1-8 | 不適切な身体接触のある児童の家庭における支援の検討                          | ○ 高津 梓<br>田中 翔大<br>奥田 健次                      |

- |     |  |                           |
|-----|--|---------------------------|
| 2-1 | 諸法実相を行動分析する, または, 行動分析を諸法実相する :<br>仏教と行動分析学から真理を考える    | ○ 渡辺 修宏<br>小幡 知史          |
| 2-2 | じぶん実験 : 大学生の起床時間と筋トレの実施に対する行動<br>コンサルテーションの効果          | ○ 相場 遼<br>松田 壮一郎          |
| 2-3 | 賃貸マンションの価格評価課題と選択課題を用いたコンジョ<br>イント分析による強化価推定           | ○ 島宗 理                    |
| 2-4 | ある新設保育園における若手保育士に対する行動マネジメン<br>ト—報告・連絡・相談の徹底—          | ○ 寺山 美香<br>杉山 尚子          |
| 2-5 | アンジェルマン症候群の幼児への PECS を用いた要求訓練                          | ○ 田原 太郎                   |
| 2-6 | 強化スケジュールにおけるハトのキーつつき行動および他行<br>動の分析—ビデオトラッキングシステムを用いて— | ○ 古野 公紀                   |
| 2-7 | 成人 ASD 女性の心因性頻尿に対するセルフモニタリングおよ<br>び行動契約による介入           | ○ 川上 英輔<br>竹澤 律子<br>北村 直也 |
| 2-8 | Web 上で行うセルフ・コントロール選択測定法の開発                             | ○ 片山 綾<br>佐伯 大輔           |
| 2-9 | 知的障害生徒の自己記録行動に及ぼす作業日誌の改良 (1) —<br>生起数とプロンプトの評価—        | ○ 渡邊 純子<br>村中 智彦          |

- |     |  |                                     |
|-----|--|-------------------------------------|
| 3-1 | コーヒー画像提示が反応時間に及ぼす効果—オンライン実験による検討—                                  | ○ 福田 実奈                             |
| 3-2 | 自閉症スペクトラム青年へのコミュニケーションに対するパッケージ型セルフ・マネジメント手続きに関する検討<br>(2) 会話の分析から | ○ 山田 友哉<br>井澤 信三                    |
| 3-3 | 自閉症児の社会的文脈における視線理解～社会的刺激の機能と形態による分析～                               | ○ 熊 仁美                              |
| 3-4 | 女子自閉スペクトラム症児に対するオンラインによる SST の効果—会話中のノンバーバルコミュニケーションの形成—           | ○ 近澤 あかり<br>高浜 浩二                   |
| 3-5 | 三すくみとリニアの強弱関係に応じた勝敗判断の形成——じゃんけん不使用の新奇のハンドサインを弁別刺激とした刺激性制御——        | ○ 高野 愛子                             |
| 3-6 | 喉頭摘出者の患者会における食道発声法の指導効果  | ○ 渡邊 直美<br>鎌倉やよい<br>深田順子<br>坂上貴之    |
| 3-7 | 神経発達症児に対する構成見本合わせ課題におけるエラーパターンに合わせた構成学習の効果                         | ○ 手塚 彩花<br>高浜 浩二                    |
| 3-8 | ASD 児と ADHD 児における社会性と衝動性：社会割引と遅延割引の測定                              | ○ 中島 陽大<br>空間 美智子<br>伊藤 正人<br>前田 真治 |

- |     |   |   |
|-----|---|---|
| 4-1 | 特別支援学校における ABC フレームを用いた話し合いが児童の標的行動と教員間の行動に与える効果                                | ○ 井上里佳<br>井澤信三                          |
| 4-2 | 知的障害生徒の自己記録行動に及ぼす作業日誌の改良 (2) –生徒評価と教師評価、報告行動、作業遂行の評価–                           | ○ 村中 智彦<br>渡邊 純子                        |
| 4-3 | オンライン会話スキル支援：自閉スペクトラム症児 2 名の双方向的コミュニケーション                                       | ○ 西山 優希<br>東 美穂<br>山本 淳一                |
| 4-4 | Chromebook による Positive Peer Reporting の入力数の増加 –中学校 2 年生における学級規模でのグラフィードバックの効果– | ○ 杉本 任士                                 |
| 4-5 | 社交不安と遅延価値割引の関係 –複数の測定法による検討–  | ○ 池田 正樹<br>芝田 菜々<br>佐伯 大輔               |
| 4-6 | アパレルショップでのレジ業務における行動的コーチングの効果 –ビデオモデリングとパフォーマンス・フィードバックを用いて–                    | ○ 野村 ちひろ<br>河本 真奈<br>米山 直樹 <sup>2</sup> |
| 4-7 | 自閉スペクトラム症児における高次条件性弁別に基づく質問意図理解の獲得  | ○ 越沼 ひより<br>高浜 浩二                       |
| 4-8 | 回避行動の生起に及ぼす反応労力の効果  | ○ 久保 尚也<br>腰冢 由子<br>岩崎 亜実<br>小野 浩一      |
| 4-9 | ハトにおける文字の美しさの弁別   | ○ 岩崎 亜実<br>宮内 俊祐<br>久保 尚也               |

- |     |   |  |
|-----|---|--|
| 5-1 | 知的発達症のある児童へのオンライン発達行動支援の効果                            | ○ 東 美穂<br>山本 淳一  |
| 5-2 | 包括的行動的介入 (CBIT) を使ったトゥレット症の治療事例                       | ○ 富樫 耕平<br>井上 建<br>岩波 純平<br>作田 亮一                                      |
| 5-3 | ADHD モデルマウスの確率割引課題における選択へのatomoxetine 投与の効果           | ○ 吉田 萌<br>水流 百香<br>久保 浩明<br>永井 友幸<br>森寺 亜伊子<br>中本 百合江<br>吉井 光信<br>麦島 剛 |
| 5-4 | ADHD モデル動物の衝動性と確率割引課題における高リスク選択の関係性                   | ○ 水流 百香<br>吉田 萌<br>久保 浩明<br>永井 友幸<br>森寺 亜伊子<br>中本 百合江<br>吉井 光信<br>麦島 剛 |
| 5-5 | 幼稚園児のための「先生のお名前を覚えよう」指導プログラム                          | ○ 笹田 夕美子<br>三井 瑞穂<br>奥田 健次   |
| 5-6 | グラフ・フィードバックが大学生のスマートフォン使用時間に与える効果—睡眠の質を念頭に—           | ○ 西口 知宏<br>米山 直樹   |
| 5-7 | Rapid motor imitation antecedent がASD 児の音声模倣の精度に及ぼす効果 | ○ 池田 遥香<br>石塚 祐香<br>野呂 文行  |
| 5-8 | 青年期の習癖行動に対する機能的アセスメントに基づく介入                           | ○ 荻原 悠斗<br>高浜 浩二   |
| 5-9 | ミニチュアによる無人島生活の形化から見えるもの                               | ○ 樋口 義治<br>吉岡 昌子   |

- |     |  |  |
|-----|--|--|
| 6-1 | 大学生のアーチェリー競技における2種類のグラフィードバックによる行動的コーチングの効果          | ○ 平田 大智<br>小林 千夏<br>米山 直樹  |
| 6-2 | ハトにおける対称律の成立要因の検討——負刺激による制御に着目して——                   | ○ 石塚 雅貴<br>丹野 貴行   |
| 6-3 | サービス業現場における接客行動改善-パフォーマンス・フィードバックを用いた組織行動マネジメントの第一歩- | ○ 八重樫 勇介   |
| 6-4 | 大学生における遅延割引と不安との関連：日米異文化間比較                          | ○ 空間 美智子<br>Forzano, L. B.<br>Fensken, M.<br>Bakalik, C.<br>Graupman, H.<br>Soda, L.<br>Teti, L. |
| 6-5 | 一人称視点カメラを用いた対人距離方向および頭部方向の計測手法の予備的実験                 | ○ 関根 悟<br>辻 愛里   |
| 6-6 | 遅延価値割引と環境配慮行動との関係                                    | ○ 青山 謙二郎   |